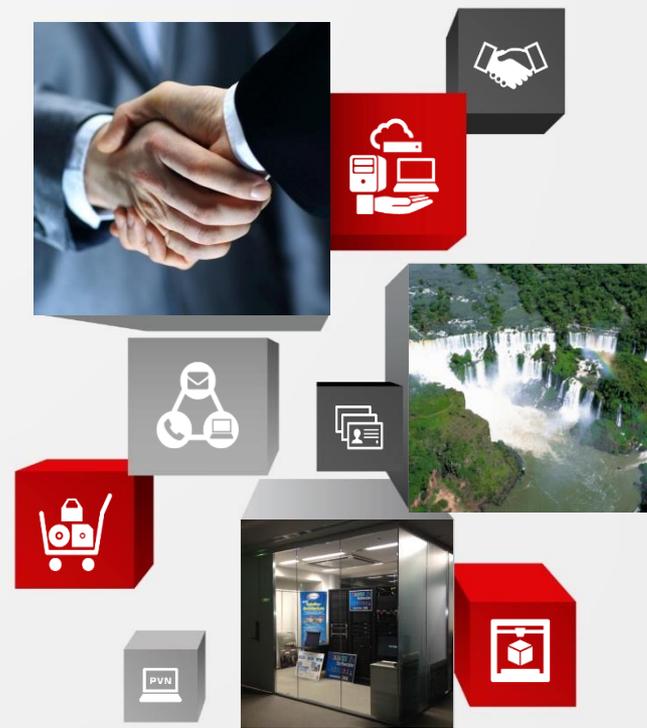


ProJetMJP2500 VS AGILISTA-3200



2016/5 株式会社イグアズ 3D推進部

iGUAZU

10th ANNIVERSARY
YEARS

Copyright 2016 IGUAZU Corporation

ProJet MJP2500



AGILISTA-3200



V S

スペック比較

メーカー	3DSystems		KEYENCE	
製品名	ProJet MJP 2500	ProJet MJP 2500 Plus	AGILISTA-3200	AGILISTA-3110
造形方式	インクジェット方式	インクジェット方式	インクジェット方式	インクジェット方式
最大造形サイズ	294mm × 211mm × 144mm		W : 297 mm D : 210 mm H : 200 mm	W : 297 mm D : 210 mm H : 200 mm
積層ピッチ	32μ	32μ	15μ、20μ	15μ、20μ
対応マテリアル	紫外線硬化樹脂 ABSライク樹脂	紫外線硬化樹脂 ABSライク樹脂 エラストマー樹脂	AR-M2(透明樹脂) AR-H1(耐熱樹脂) ※AR-H1は15μ非対応	AR-M2(透明樹脂)
解像度	800×900 DPI	800×900 DPI	635×400 DPI	635×400 DPI
特徴	高精度・低価格・省スペース 微細造形 ワックス性サポート材	高精度・低価格・省スペース 微細造形 ワックス性サポート材	国産3Dプリンター 高精細造形 水溶性サポート材	国産3Dプリンター 高精細造形 水溶性サポート材
サポート材	ワックス	ワックス	水溶性サポート材	水溶性サポート材
後処理方法	MJP Easy Clean	MJP Easy Clean	専用洗浄液 (浸しておく)	専用洗浄液 (浸しておく)

AGILISTAは積層ピッチや水溶性サポートによる優位性が
うたわれていますが、はたして・・・

造形材料の種類

■ ProJet2500

▶ エラストマーを含む最大5種類の材料を扱う事が可能

- アクリル系樹脂(White・Black・Clear)
→ABSのような剛性に優れ耐衝撃性のある素材
- エラストマー樹脂(Black・Natural)
→約2倍の伸縮性のある素材

VisiJet EBK



VisiJet RCL



○モデルの外観把握以外にも最終製品及びそのテストに持ち込む事が可能。

■ AGILISTA-3200

▶ 透明樹脂、耐熱樹脂のみ

○樹脂自体に軟性(軽く握る程度でゆがんでしまう)があり使用用途が限られてしまう。

利便性のあるマテリアルの数々は
ユーザーの可能性を大きく広げます。

サポート材除去

■ Projet2500

▶ EasyCleanによる高速サポート除去

- スチームの力で高速な処理が可能
(従来のオープン+超音波洗浄機の1/2~1/4)
- 廃棄物は無害なワックスのみ
- 一度に多くの造形物を処理可能



■ AGILISTA-3200

▶ 流水でサポートを洗い流してから超音波洗浄機にかける。

- 水に浸すだけではサポートはとけない(時間が大幅にかかる)
- サポート除去に使用する廃水は産業廃棄物
- 爪楊枝などで細かな部分を除去。手間多し

手間と時間の短縮がユーザー様にとって
一番の利益になります

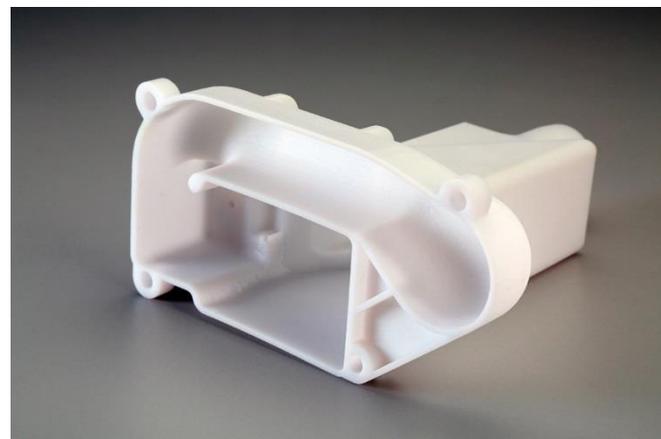
積層ピッチ・・・XY解像度で比べて下さい

ProJet 2500のXY方向の解像度は同クラス最高の**800x900DPI**

※人の網膜が認識できるのは300DPI程度

AGILISTAのXY方向の解像度は・・・・・・・・・・ **635x400DPI**

積層ピッチも大事ですが、XY解像度でも比べてください。
ProJetMJP2500は、造形物の再現性が非常に高いです



カウンタートーク集

競合トークA：「水溶性サポートは簡単です。急ぎの場合は手作業でサポートを外して、お湯に入れば簡単ですよ」

→「入り組んだ形状は手作業では取り除けませんし、EasyCleanは一度に多くの造形物を短時間で処理できます。手が入る事で造形物を破損してしまう恐れがありますよ」

競合トークB「アジリスタは7年も耐用できる信頼性があるプリンターです」

→「7年の耐用であります但し保守契約は必要ですよ。リース契約で2～3年で新機種に入れ替えているお客様も多く見られます。なぜなら技術革新中のテクノロジー分野であるからです。7年も同じ機種を使用する事は無いと思われれます。」

競合トークC「日本製で安心ですよ」

→「3Dシステムズ社は、世界で初めてAM技術を製品化し、30年以上も実績のあるメーカーです。日本製は安心するフレーズですが、実績の面では3Dシステムズが圧倒的に優位性があります」3Dプリンターはアポロ契約を機に開発された分野ですので米国は最新テクノロジーが豊富なのです。